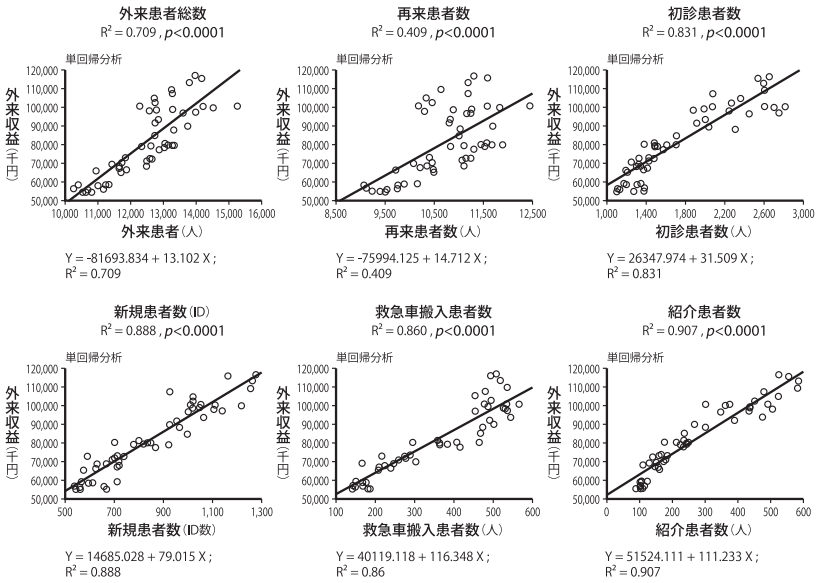
（9）病院医師の医療機能的役割からみた外来収益について

さて、話を戻しましょう。さまざまな患者の種類とその数を見て、医師１人当たりでどのような患者が増えると医業収益が増えて、どのような患者が増えると医業収益が減るかを調べれば知りたいことが明らかになるはずです。

まずは医業収益の中でも外来収益について考えてみました。外来収益に及ぼす各種患者群の数の変化による影響を調べてみました。

確認のために前研究と同様に外来収益と各種の患者数（外来患者総

図５　外来収益（Y）と各種患者数（X）の関係



グラフは全て右上がり。どの種類の患者数が増えても外来収益は増えます。
しかし、これは経営に有用でしょうか？

数、再来患者数、初診患者数、新規患者数、救急車搬入患者数、紹介患者数）の関係を単回帰分析した結果を示します（**図５**）。Y軸は外来収益でX軸は上段左から外来患者総数、再来患者数、初診患者数、下段左から新規患者数、救急車搬入患者数、紹介患者数のグラフを示しました。

予想どおり、どの種類の患者数が増えても外来収益は有意に増加しました。全てに正の相関を認めました。さらに決定係数（R^2）でみると外来収益の増加に最も大きく影響するのは紹介患者数の増加であり、救急車搬入患者数、新規患者数、初診患者数、外来患者総数、再来患者数の順で続きました。外来収益の増加を目指すなら紹介患者数の増加を求めることが最も効果的であり、続いて救急車搬入患者数の増加を求めることが効果的であるという結果でしたが、いずれにせよ、どの患者群が増えても外来収益が増加することについては前研究の医業収益と同じ結果になりました。

そこで、病院を訪れる各種患者数ではなく、医師１人当たりの各種患者数で検討すると、結果は大きく変化しました（**図６**）。Y軸は外来収益で、X軸は上段左から全て医師１人当たりの外来患者総数、再来患者数、初診患者数、下段左から全て医師１人当たりの新規患者数、救急車搬入患者数、紹介患者数のグラフを示しました。

これまでのグラフはほとんど全てが明らかに右肩上がりでした。つまり、X軸の患者数が増えるとY軸の収益が上がるという右肩上がりのグラフです。しかし、医師１人当たりの各種患者数で見ると、**図６**上段中央のグラフの直線で示しますように、医師１人当たりの再来患者数が増えれば外来収益の減少が示され、同じく上段左に示すグラフのように医師１人当たりの外来患者総数が増えても、ほとんど収益には影響しないことが示されました。これまでの分析と同じように決定係数（R^2）で評価すると、外来収益の増加に最も大きく影響するのは医師